ゲートキーパー（こころ見守りたい）育成（岐阜県海津市）

＝市民とともに考え、実行する自殺対策の展開＝

【概　要】
海津市では、2014 年度よりゲートキーパー養成講座を開始。2017 年度より養成講座の方法を再検討し実施した結果、修了生自ら、こころ見守りたい（ゲートキーパー養成講座修了生によるボランティア）として皆で活動しようとの要望があった。その活動に賛同するこころ見守りたいと自殺対策について、ともに考え実行する体制づくりが可能となった。主に、啓発事業、若年層対策事業を、A 居場所づくりについて、B 啓発活動、C 思春期対策（SOS の出し方教育）の 3 分野に分け活動を実施している。

【大綱の分類】
2）国民一人ひとりの気づきと見守りを促す
4）自殺対策に係る人材の確保、養成及び資質の向上を図る
7）社会全体の自殺リスクを低下させる

【政策パッケージ分類】
基本 2-2）自殺対策を支える人材の育成（一般住民を対象とする研修）

【事業実施年度】2020 年度事例（2017 年度～2020 年度）

【事業予算】146,000 円（2017 年度）

【利　点】
▼市民目線の自殺対策が実施できる
▼市民がもっている能力（特技、趣味、気持ち）を発見し各活動に活かせる
▼一般市民への影響力、波及効果が高い
▼行政とともに考える検討会等により、わが町のこととして認識が高まり考える力が養われる

【実施に至るまで】

事業実施の背景

①地区組織（民生委員・児童委員、主任児童委員、母子保健推進員など）の研修に位置づけるなどの養成講座では、一定の評価や理解は得られるが、受動的となっていた。
②ゲートキーパーとして活動することの不安や活動できる場が得られにくく、役割が発揮できないとの意見があった。
③受講生のほとんどが過去、何らかの状態で自殺関連事象に遭遇、また自分も経験したことが受講のきっかけになっており、養成講座修了後、ゲートキーパーとして地域で主体的に考え、取り組むなど原動力が期待できた。
④行政主導の自殺対策では、一般市民に浸透しにくい状態にあった。

計画を立てる上での工夫

①地区組織等を一方的に対象とした行政主導型の研修を中止し、一般市民を対象に養成講座を募集した。
②受講生同士が交流しやすい、主催者が受講者を把握可能な人数（25 名定員）とした。
③受講の動機や想い等を語れる時間の確保（自己紹介）を重視した講座内容とした。
④養成講座にこころ見守りたいも参加し、自ら活動紹介し交流を図った。

⑤受講生との対話や交流を通じ、市民力を発見することを重視した。
（背景や特徴を捉え自殺対策に活かす）

具体的な内容

▼養成講座の内容
・3回/1クール、約90分/1回
・主な内容　1回目：自己紹介、自殺の現状について、ゲートキーパーの役割等について
2回目：傾聴（ロールプレイングも含め）
3回目：自死遺族の方々の想いを知る（千の風の会　演者3名）
海津市の自殺対策の取組みについて（こころ見守りたいより活動紹介、こころ見守りたいの想いを語る）こころ見守りたい活動賛同者への検討会等の案内

▼こころ見守りたい活動
・2018年度発足（36名賛同　男性15名、女性21名となる。年齢構成は、40代11%、50代6%、60代36%、70代42%、80代6%　2021年6月現在）
・活動検討会を開催し、活動目標、基本姿勢、活動の視点の洗い出しと共有
・自殺対策事業の啓発事業、若年層対策事業について協働実施
活動をA居場所づくり、B啓発活動、C思春期対策（SOSの出し方教育）の3分野に分けて実施
・A居場所づくり（居場所づくりについて深める、ひきこもりについて学ぶ、先進地への視察研修）
B啓発活動（図書館特設ブースの設置（展示パネル等の作製）、地区組織へ出向き啓発、街頭キャンペーン（2018年度～9月自殺予防週間、3月自殺対策月間に合わせ）、イベント時に特設ブースで啓発
C思春期対策（SOSの出し方教育）市内小学校2校を巡回　こころ見守りたい絵本の読み聞かせと合わせ実施）
＊コロナウイルス感染症拡大予防のため中止となった活動含む。
・各活動前に、検討会を開催し意見の集約や内容を検討し実施。（検討会時は、必ず参加者全員が発言できる時間を確保）
・各種報道機関に情報提供しPRする。
・活動は、こころ見守りたいの持っている特技や能力が活かせる内容を企画実施する。

【成　果】
▼海津市自殺対策計画の一部に、こころ見守りたいを核とした自殺対策を策定でき地域づくりの一翼を担っている。
▼市民目線の意見や提案があり、主な内容としては、啓発活動の具体的なアイデアや思春期対策（SOSの出し方教育）に適した絵本を選定し読み聞かせを取り入れる等、自殺対策実施に反映できた。
▼こころ見守りたい個人として、気がかりな人や生きづらさを抱えた方に対して、声かけや見守りの支援、関係機関に同伴するなど、地域で自発的な行動を実施する方が増えた。
▼自殺関連等の社会の情勢に目を向け考える方が増え、自殺対策に関する最新の情報提供や他市町の先駆的な取組み等の情報提供が増えこころ見守りたいに情報を反映することで意識向上に繋がっている。
▼意見交換や発言できる時間の確保により交流が深まり、こころ見守りたい同士の分かちあいの場にもなっている。

【補　足】

▼検討会時の意見やアイデア

▼活動時着用するベスト　ピンバッチ・缶バッチ

▼図書館展示パネル

▼SOS の出し方教育

【課　題】

▼こころ見守りたいの年齢構成に偏りが生じ、青年層の賛同者が少ない
▼各こころ見守りたいの意見をすべて反映することが困難になっている

【事業種別】　人材育成事業
【準備期間】　不明
【人　　数】　4 人
【人口規模】　32,749 人（人口速報集計）
【財政規模】　14,920,000（千円）（2020 年度一般会計当初予算）
【自治体負担率】50% 地域自殺対策強化事業補助金活用
【事業対象】　こころ見守りたい
（ゲートキーパー養成講座修了生（ボランティア））
【支援対象】　地域住民
【委託の有無】　無し
【実施主体・問合せ先】海津市健康福祉部社会福祉課　TEL：0584（53）1139
Mail:shakaifukushi@city.kaizu.lg.jp

【参考資料・文献】

▼特になし